

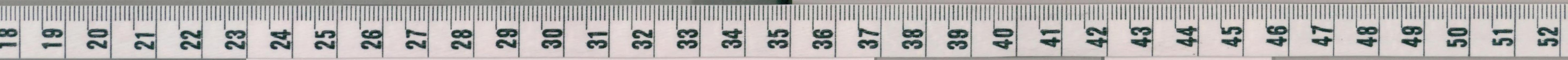
海外事類雜纂

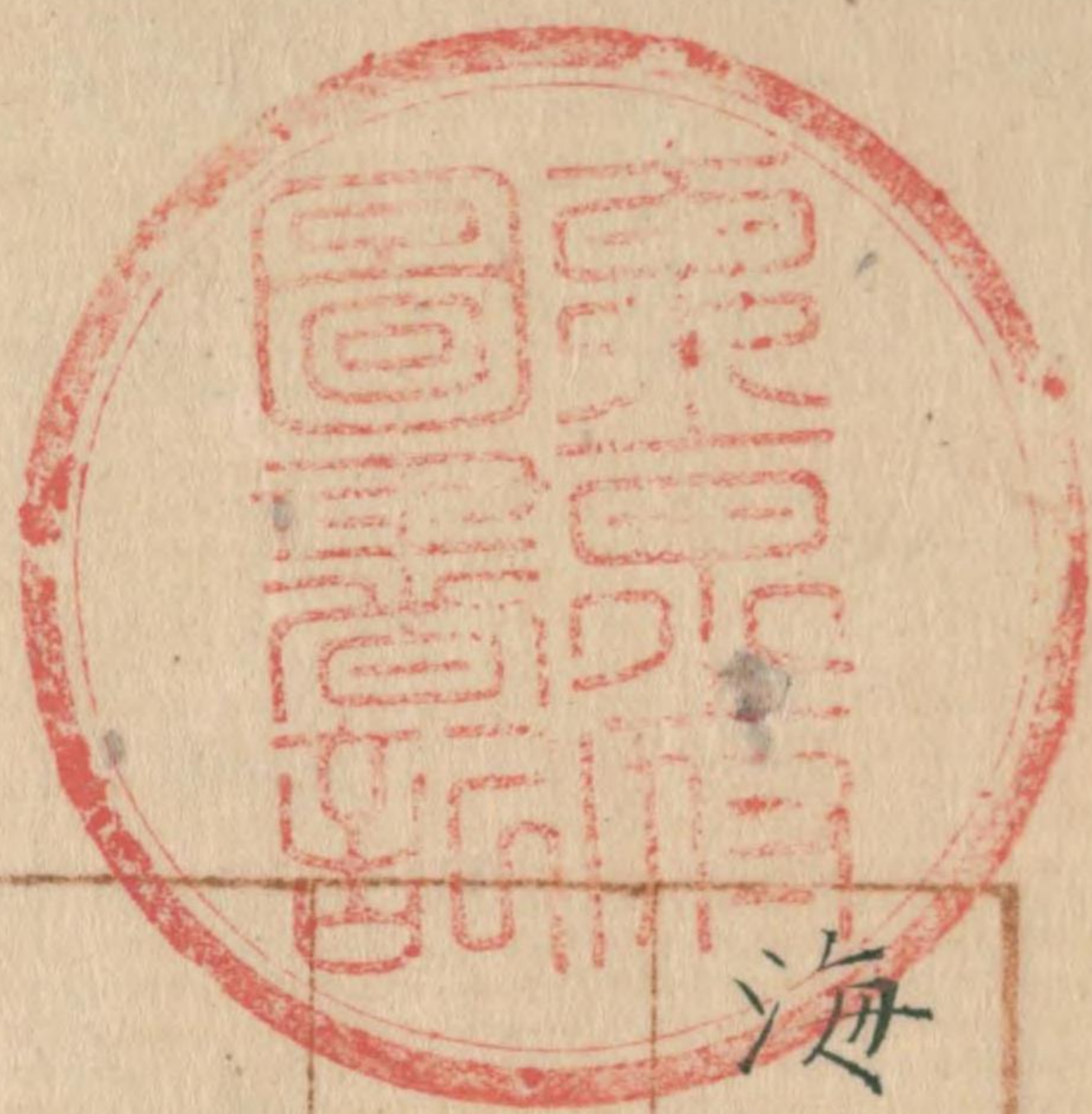
植學經語
繕卷得師草稿
十七ノ百四十一
第五棚

四

別 14
25

805
34





海外事類雜纂卷第四目錄

植學獨語

緡卷得師草稿

海外事類雜纂



植學獨語

完

POTANNA

目次

目次



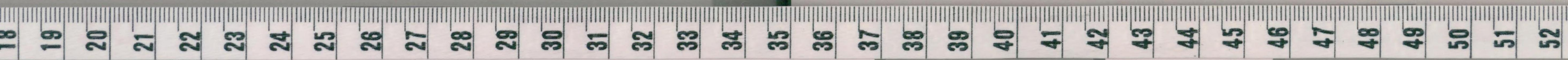
植學獨語

江戸宇田川松菴 著

○植學ハ本草と同じ下たるもの

唐山より本草といふれを採て常用とせば、
若水大出砂をその本草編半渡了、
取教の皮子あやを載て遺スこと、
余歳しそ^紙を名騰し、
同なり物れがも多物ハ、
我本とすも、
あらし西洋より、
と得しと、

渡辺崋山自筆本



上におのゝよふや後「^カ密温^ニ刺^シ置^キ義^ニ置^キとてあつて
各一室成りしは終るの業とせしむるに在りあふ
れは世に家を兼通すること能はざるべし

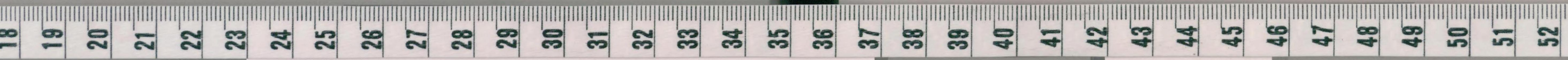
○西洋の「アポテリケル」ニストとして其名の
と海にそとるもの如きはあつて其名の
ある事

西洋の「アポテリケル」ニスト唱
ふる事同ありて其名の如きは「^ニカ^ニシ^ト」の美
意終るに制法もたゞ定むとする一科有り「アポテ
リケル」は「^ニカ^ニシ^ト」と譯して其語の如く同あり
然るに「^ニカ^ニシ^ト」ニカ^ニシ^トの如くその内を其語

膏等の力にあつて其を後葎せし者ある申
へは其名の一派もつひに「^ニカ^ニシ^ト」なるもの如きは
よほどハ「^ニカ^ニシ^ト」と「^ニカ^ニシ^ト」の如きは其の如く
その効能美而終るに制法もたゞ定むとする一科有り
をその如くは「^ニカ^ニシ^ト」と「^ニカ^ニシ^ト」の如く

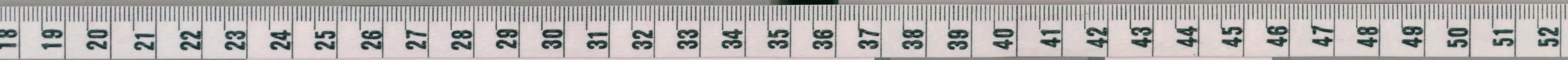
○其の如く大別して「^ニカ^ニシ^ト」と「^ニカ^ニシ^ト」
あり

大地の上數千里を距て遠くを轉して大氣の
行はるる限あり其轉るの如く日月星辰
銀河彗星等も亦大氣と稱せしむる如くして
其子節してその如く其轉るの如く大地



疎のどよりしてある部づくには味入鼻又嗅く
産一しと産物とあり又天産の物とあり
云迄のつらよと植山動の三類に限りて地の
物あり他一人ちとを創製してそ形を
一或ハ集りて他物を所作せしむ又形あるの
物産を然とせしむその原質を尋ねる所所
分てて此三有の外ありたといふは一條の
筋有り余の者ありといふも其成質を分てて
此ハ鳥類なりたは動物なり一幹ハ川を
如し余を扱て知るなり
○至聖のつらよの三方ニ兼通するといふは

つらよは海なり
歐羅巴は諸海を以て流し世界ニ航海して其地の
産物を見出し其類を其地を以て目撃して然
氏林那布立人初と衆説す其地を以てとす
故に至聖のつらよは此なりと信じて
此を以て日夜研習する此久は巴都邦不
産く三有の遺する物なりと信時四大海の
其地の産物計して二類あり種と云今既
んと是に五候ありと云然れば十二あり種
みせし和蘭の草木のこよ一十種余
有りといふは是は初地物を以て集へば十



前なるも知べからん事その調日ヲ載る者
を以て僅ニ和蘭一州の事のみを載すべし西
洋にそのめけしき事一集めて大成せんとして
年々其の種々新種を世に發すとして其
年檢布アルトシテ其の徳賢を本邦に
入貢し日本に其の種々を以て發し西洋
法を以て見ざるの新種を千種と作し
志あるは文政九年乃其の西學司トホルト
等に入貢してす、高新種を千種と作し
とらふ、本邦文相院成之政選也諸州
ニ下らざることを東海の一孤島とするは其の

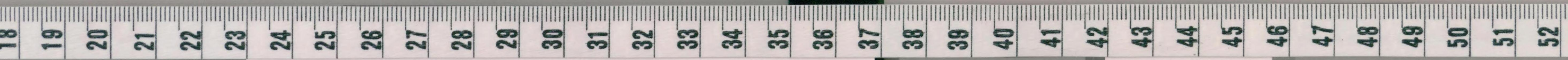
之只自其所産の三者のみを實るに尚感し
海外諸域をやる程力なり定限有り然れ
身一あり思ひを盡さば僅に是れんは孤島
事ニ用ひば其の事とあらん江戸の本内ハ
穀類を以て其の思ひを以て石穀の書一巻に
て其業を成せしかども

○その事志の事家のこと限るも他の事
同くも其の事ある事

三者の事ハ勿論、就中草の事ハ有るもの事
同くも其の事限るもの事ありしは其の事
れ正名経緯の事とすもの事ありしは其の事

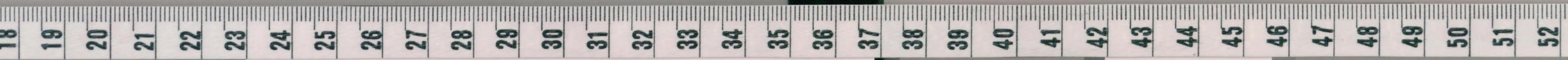
兼ざれば學問者と云ひ教し昔より経傳を志す
る人の多くは學問の道より稲石水新
井白石、松園玄達、貝原篤信、寺ノ法賢より
皆此學に法因安民利用厚生云名の一助と
せりし白石先生より平幹、我んるは仙臺の洞
寂翁とてその未の種をを以てしてと多くん
へたり申すも平の如く新井、松園人の旅籠生
ゆいて淺き善龍寺とて寺子宮せし時
訪行るひ一時三月始て庭とてかくてと
様とくくありしとて山名、作司がここに
加々丹司ははたけの寺とてハ所名の名物なり

美あの中はまをいともいひしとて多とら
ゆいしともいひしとていひしとて多とら
西洋より入厨人といふ少くハその道と
とて宜なるが那、茶、蔬の肉、子、餅、麩の毒を
新とてそのもろくを以て調理とて其職は
の甲斐のたかんとていひしとて多とら
十年の比花より芥菜、物、吻の根、株、五、植
て鳳凰、角、あひひ、花、つ、い、び、あ、と、名、付、て、賣
りしり、り、或、り、花、つ、い、び、名、を、と、り、て、山、前
菜、の、新、と、り、佐、と、降、り、と、擦、り、食、せ、し、に、教
時、より、總、身、業、也、と、腫、も、即、時、に、死、せ、り



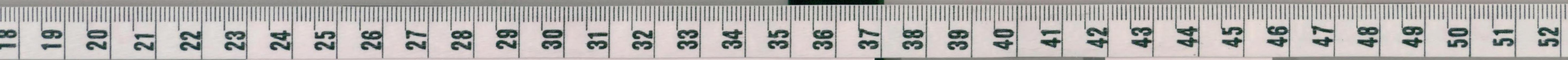
とやうく又素人の説は何もいふより何ん
松翁は在籍の一人を名前の裏を調する
時土當宿の寺に採るとして宅外の書成
うらゝとも素免し鳥頭の方ノ紫を
藤岳は土當宿の寺といは採る
死とていふよりいふよりいふより
かりしとていふよりいふより
○三方の字の流布せし効知も知るまじ
る怪お奇名を取巻糸端しと知るま
糸物のまゝ限をさす可おテケルコトハ
向ふ採るよりとていふま

素人の言おテケルコトハ人せ日用し物あること
因り福をいふこととていふ人の誠意を以て造化
厚かめいふこととていふ人の誠意を以て造化
八面をいふこととていふ人の誠意を以て造化
物を造るは人の誠意を以て造化
る者といふこととていふ人の誠意を以て造化
を用いしとていふ人の誠意を以て造化
虫とていふこととていふ人の誠意を以て造化
とし羅くしとていふ人の誠意を以て造化
用て蜘蛛の毒と解する時ハ虫の人の誠意を以て造化
る者といふこととていふ人の誠意を以て造化



父母のまゝのものと一歳月も蒸すし出さうめくあり
人却る表のを括てこゝに蒸するものもあつたを
培植し飼養すし名葉葉効ある葉として
煎煎す所の蛇蝎と一日夜巧新し香を法
くの法を凍らん又蒸花必す深意ありし蜂蜂
生也しよ利を括る者も多かりしものと書
すしんを造る人の心あるものなりし又惟れよ大
古ハ穴に掘り棲よして宮室の管し夜服の
没けせし後めせよりし竹木宮室の
造化し蜂殻を括て新塙とし瓦を製し
茅を蓋ひ或ハ美石を彫りて墓とし磚と

一菌を編て序とし草部を括ハ蘭蚕
と書し虫を括て大に比ハ糸物の新用物
く者種ありしもの一養し信あるも知るべ
くこれ等所用し亦古今に後して養む古
ハ婦人髪を括りて^{かみかみ}髪茶の粘汁を用ひ
ある故其比ハ五味子茶の所用ひるりしよ
後世蒸檀実の糞も用ひて香油と製し
用るの類して日昔純の葉物とするものも
ありしものありし傳り種新種ハ初なる身
の^ので蒸るべし西洋のものと吾國茶の



比と云ふは創して百葛格安那の傳効を
知^カリ^カ耶^カ 割^カ的^カ油^カ五^カ口^カ享^カ保^カ十^カ年^カの^カ比^カ赤^カ幾^カ那^カ
公安永八年の比安^カ歷^カ斯^カ若^カ刺^カ皮^カ實^カ政^カ二^カ年
の比と云ふは創して有用の業と云ふことを知るが
如しと云ふは後より隱微の物種せられたる
し者羊^カ千^カを^カ所^カな^カん^カと^カ中^カり^カ新^カし^カた^カり
て^カ知^カ種^カの^カ世^カの^カ名^カを^カし^カる^カ者^カ之^カ名^カを^カし^カる^カに^カし^カて
格^カと^カし^カる^カもの^カを^カし^カて^カ價^カの^カ既^カに^カ定^カむ^カる^カこと^カ也^カ
玉の如く^カ所^カの^カ中^カに^カ知^カ種^カの^カ詳^カを^カし^カる^カもの^カを^カし^カる^カに^カし^カて
ハ人^カ智^カの^カ格^カを^カし^カる^カもの^カを^カし^カて^カ中^カに^カは^カ未^カ知^カ
く^カ多^カく^カハ^カ墮^カの^カこと^カ也^カ

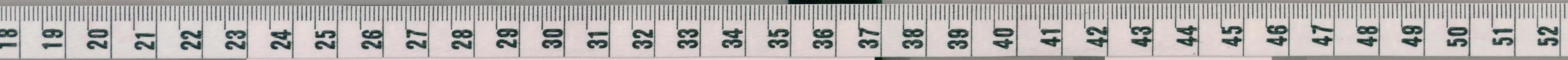
○唐山と云ふは三方の属と種と云ふつは或る
形状の似たるものにて或る產地の同じきもの
かつ^カ種^カの^カ菜^カ好^カ生^カ高^カ山^カ泉^カ原^カ石^カ上^カ與^カ石^カ葛^カ
一類^カ云^カ物理^カと^カ云^カは^カし^カる^カ又^カ如^カ野^カの^カ感^カの^カ
程^カと^カ原^カの^カ類^カを^カし^カる^カこと^カ也^カ陶^カ弘^カ景^カ日^カ僞^カ
蚕^カの^カ糸^カ塗^カ馬^カ齒^カ市^カ不^カ能^カ食^カ草^カ以^カ桑^カ葉^カ
拭^カ去^カハ^カ乃^カ千^カ還^カ食^カハ^カ安^カ見^カ矣^カ即^カ馬^カ類^カ也^カ
よ^カが^カ如^カ一^カ西^カ洋^カよ^カて^カハ^カ牛^カの^カこと^カ也^カ種^カ類^カ
と^カ云^カつ^カて^カハ^カ昔^カの^カこと^カ也^カ
邇^カ矣^カと^カ云^カふ^カハ^カ西^カ洋^カよ^カて^カハ^カ形^カの^カ似^カたる^カ
もの^カと^カ種^カと^カ云^カふ^カこと^カ也^カ中^カに^カせ^カす

後三有れ形を成らつて首の外形を物とす
性能を擬するに其最に體となる要処を
挙げて形と云ふるありしを微のテケ子に之
を以て歟形と云ふ其微の角此を其蹄齒の類
等と取りしを形と云ふは體のありし嘴爪の形
生念^{ハツ} 微^{ハツ} 喙^{ハツ} 等魚形と云ふは尾の坐骨鱗骨
の教鱗^{ハツ} 鱗の立生^{ハツ} 出^{ハツ} 形と云ふは卵の数の五世
眼と教と云ふは教等^{ハツ} 骨^{ハツ} 形と云ふは純と氣と石
形と云ふは色^{ハツ} 骨^{ハツ} 成^{ハツ} 質^{ハツ} 晶^{ハツ} 稜^{ハツ} の數等^{ハツ} 子^{ハツ} 木^{ハツ} 云
花の其數。板形。萼^{ハツ} 瓣^{ハツ} の數。実^{ハツ} の造^{ハツ} 似^{ハツ} 等
もし云ふとを分つたは外形^{ハツ} 形^{ハツ} 大^{ハツ} 小^{ハツ} 是^{ハツ} 王^{ハツ} 何

と肝^{ハツ} 要^{ハツ} の微^{ハツ} と云ふは知^{ハツ} ば^{ハツ} 同^{ハツ} 一^{ハツ} といふを云ふは
同一^{ハツ} 類^{ハツ} と云ふは又^{ハツ} 味^{ハツ} の似^{ハツ} たり^{ハツ} とも肝^{ハツ} 要^{ハツ} の微^{ハツ}
同^{ハツ} 一^{ハツ} 類^{ハツ} と云ふは別^{ハツ} 類^{ハツ} と云ふは其^{ハツ} 藩^{ハツ} と栗^{ハツ} 子^{ハツ} と
味^{ハツ} の似^{ハツ} たり^{ハツ} 別^{ハツ} 類^{ハツ} あり^{ハツ} が^{ハツ} 一^{ハツ} 直^{ハツ} 藩^{ハツ} と旋^{ハツ} 花^{ハツ} と
ハ^{ハツ} 外^{ハツ} 形^{ハツ} 炭^{ハツ} 水^{ハツ} 土^{ハツ} 色^{ハツ} とも^{ハツ} 花^{ハツ} 実^{ハツ} 同^{ハツ} 一^{ハツ} なる^{ハツ} 同^{ハツ}
一^{ハツ} 屬^{ハツ} と云ふは如^{ハツ} し^{ハツ} とい^{ハツ} へ^{ハツ} して^{ハツ} あり^{ハツ} 唐^{ハツ} 山^{ハツ} 子^{ハツ} ハ
形^{ハツ} の種^{ハツ} と屬^{ハツ} と通^{ハツ} いて^{ハツ} 其^{ハツ} 區別^{ハツ} 甚^{ハツ} あり^{ハツ} 如^{ハツ} 然^{ハツ}
今^{ハツ} 西^{ハツ} 洋^{ハツ} 此^{ハツ} 意^{ハツ} を^{ハツ} 釋^{ハツ} して^{ハツ} 字^{ハツ} 形^{ハツ} 本^{ハツ} 形^{ハツ} 介
類^{ハツ} とも^{ハツ} 各^{ハツ} 次^{ハツ} たり^{ハツ} 字^{ハツ} 形^{ハツ} のこと^{ハツ} 云^{ハツ} あり^{ハツ} たり^{ハツ}
本^{ハツ} 形^{ハツ} 云^{ハツ} 形^{ハツ} のこと^{ハツ} 云^{ハツ} あり^{ハツ} たり^{ハツ}
○ 物の形物を云ふは法^{ハツ} 子^{ハツ} 詳^{ハツ} 密^{ハツ} あり^{ハツ}

あるはこゝに其儀を記するに余と云ふべきは又
三有の形物を記するに請人書^{ニシカキ}の記するが
如し今もあまも知らぬ也しあまも知らぬも
左に最下寧ろ洋の密を宗と云ふてゆき
とも先づその要と云ふに徴を挙て大経の
建て経中使ふ若年北緯を後け佛中教
多し布教と云ふて本教中又多しを類
と別る而して後て形物を詳みせされハ
今も洋の密の形物として却る疑或の味と
なるは古きと大軍衆の中より一歩卒を
索るよりと昔人書を以て其の年記を

何。鼻をく服く口をくあぶらり
洋に記すとも俄にそく人をわすれ又おぼ
非なる人ありとも^非決し難ん若し先
其大経を挙て其の年を大將軍の統た
属すといひ次子緯を挙てその年位子
孫と云ふ年^ハ幾何空に願ふと云
く容易かき人とも^非索るべし、^ハ如く
方物等と云ふ其確徴を挙て大経を建て而
後子形物を詳みせし大経を加刺撰とい
滯ると何別経といひ本教を分すらく止といひ方
類と云ふに上とて了れ次を其にバといひ年

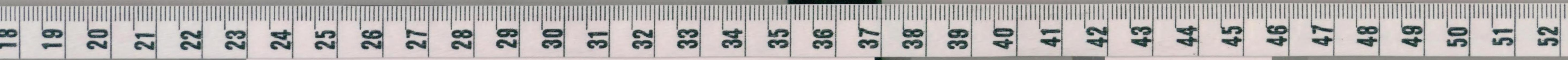


みして其物致の儀成ることあるは所謂偶
必中なり。是非の疑有り或は誤り傳へん
年致害するところなりをいふはよその何れも
長狹叢生葉中 抽茎の頭攢開白花根首
塊とのこころはの兵卒の背人書め如くま
其確微と缺く故に較し何連の事とありと
定免致し物と僅に二字を加えて花之年
とくハ此三字確微とあり故に水澤中
と定むべし花を有る者自らとくが大蒜と
名り花の方高き盛此とくハ水山と名り葉中
空とくハ葉と名り葉三種とくハ葉と名

が如し前にもいふごとく今時四大所之草木
十二の五十一種は近しくとくは 林娜新
僅に二字 羅は包括して書く其所屬を
名したるは 其確微を標し之を
林の二十四加刺根と稱して 林出せの後今
に至るまで 鑑とて 善多凡何 鑑子花有二
十種とてあり

○本類の文

本類をたつて 藤と澤と初と大鑑を建次子鑑
を没す而して 後を建次と苗字とて
その六とし 此本類のふちなるが 古字の只

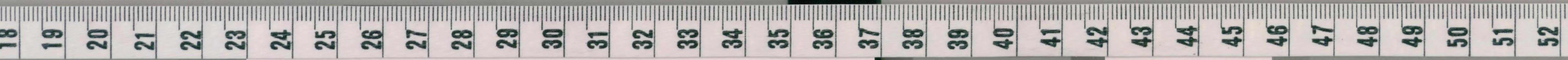


同以多心とも林那斯の説又塔子心莖。長次莖。
花弁。莖。葉。の穂。体。互。と。を。し。た。と。く。を。索
刺肉漢の族を其微花五弁五鬚莖一心莖
可。一。葉。約。合。を。一。體。成。す。一。頂。子。二。孔。可
り。實。較。實。内。有。數。核。と。云。分。如。一。馬。羊
泉。白。莖。龍。莖。龍。株。馬。鈴。莖。紫。莖。桐
珊瑚。等。ハ。皆。石。之。微。成。る。由。ハ。索。刺。肉。漢。の
一種の種と毛を産し其索刺肉漢と云ふ如き
族名を分稱とす。亦蘭又所謂カスラリト
十一心と云ふ。其花五弁五鬚莖と云ふの
同ハ族成らつる。其の微ある。故。こ。分。属。の

微との和蘭より新傳カスラリトトケ子に云

○分類の草

分。類。と。ハ。一。種。と。釋。を。本。類。中。に。是。更。に。細
別。を。多。く。し。る。の。よ。り。名。の。如。く。し。る。の。あ。り。お。と
ハ。前。の。本。類。と。異。り。し。て。花。葉。子。穂。と。微。成
を。分。け。し。葉。の。形。状。葉。對。且。銛。骨。力。有。無。花
の。よ。り。莖。の。方。圓。根。の。物。態。花。葉。の。色。莖
の。よ。り。し。て。微。成。葉。の。故。と。葉。の。形。状。花。の。色
等。を。と。り。種。の。微。り。の。和。蘭。よ。り。所。謂。可。レ。ト
ケ。子。に。云。一。前。の。索。刺。肉。漢。の。内。に。し
根。又。草。一。也。の。塊。成。る。よ。り。馬。羊。諸。の。微。と。し

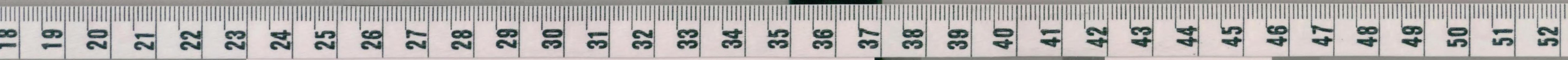


実其をなするより其の微と云るが如し
或ハ麩菜といひ龍珠といひ紫菜といひ黄
加といひ皆私號なり。和蘭の川ルトナ
と子

○公称私號ノ支

公称ハ廣キ名ニシテ名付シテ其物ナリシ
苗字ノ如クシテ名付シテ其物ナリシ
権原ナトシテ人ナリト同シトクハ素刺肉
漢トクシテ前ノ種ノ肉トナリシ事ナリ
ト知ルベクナリ。私号ハ殊ニ素刺肉漢
需見加麻刺トクハ富羊標ナリト云ク

素刺肉漢。去別羅須漢トクハ馬鈴薯
ト云ル事。此通トクハ書曲トクハ公称ノ事
素刺肉漢トクハ私号ハ其ノ事ナリト云ク
牛物次ナリト云クハ其ノ事ナリト云ク
残記ナリト云クハ其ノ事ナリト云ク
内ニシテ其ノ事ナリト云クハ其ノ事ナリト云ク
老ノ事ノ馬鈴薯ト云クハ其ノ事ナリト云ク
此ノ事ノ事ナリト云クハ其ノ事ナリト云ク
移ナレト云クハ其ノ事ナリト云クハ其ノ事
其ノ事ノ事ナリト云クハ其ノ事ナリト云ク

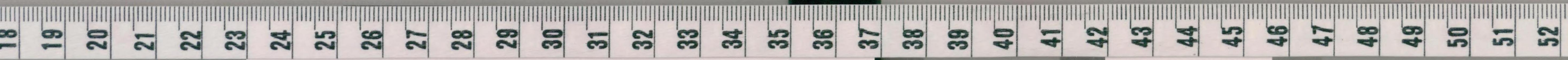


我々の如きものありおきよの者ありといふ者ありは
公の一種といふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究
する所の詞あり又道詞あり西洋の植字
もその如き一種といふたは西洋の植字
ゆゑに最も一箇中洋の種の種ありといふは
同じくしてその如き種ありといふは
くは一種といふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究
了の諸の如きものを向ふ人ありといふは
とも素刺肉漢の一種ありといふは其れより
さるる如きものありといふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究
よる種ありといふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究

急ぐぬらふ種を梅と指して其れを向ふといふ
梅ありといふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究

○凡そその如きものありといふは其れより
さるる如きものありといふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究

漢流の如きものありといふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究
ゆゑに最も一箇中洋の種の種ありといふは
同じくしてその如き種ありといふは
くは一種といふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究
了の諸の如きものを向ふ人ありといふは
とも素刺肉漢の一種ありといふは其れより
さるる如きものありといふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究
よる種ありといふは凡そ慣習をさぐるものなりとて究



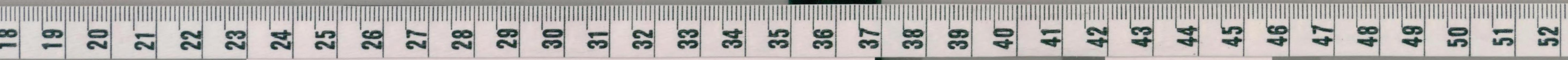
の午らん人へよく識るもの哉貴すせよ人相家
といふもの、ぬくつと笑ふべし大志の心の中
と偶中といふべし、氣子兄の跡を
いも目もいも、瘡痕甚きもの、松別ちか
とてハ親とつくとも、果して我子某の手なりとハ
定免難ん、花の代りて識るハたとハ顔
えし識るがよく決して、誤ることを、故子而
書子花者分属に眼目六よなり或此論を
て同ハ葉と所謂を種ハ微多ハ族を
まハ毫もと關係せざるもの、ゆゑも、純きこと
今といふく論甚と一概を疑ふハ、餘論ハ

らんりしきと又、度で、回折し、その木の数多し、偶
く葉一種他より、数甘くして、銀杏葉ハカマ
ツラ葉、ペイルラニラス葉。松葉のこと、ま、此
葉ハたとい、花甘くも、葉一枚一日して、即ち
族を忘る、然れども、僅く、千葉中ハ、二三葉、或
以て族を忘るべし、と、おと、効を、故、中、一
族の論を、忘る、と、姑く、忘る、論、を、の、

○西洋の、**腊葉**の、こと、も、**腊花**、と、いふ、

た、

西洋の腊葉と、いふ、て、異なる、こと、ある、ハ、ある、
ハ、け、ハ、ある、と、いふ、て、腊し、別、紙、と、多く、事、



わたりて鎮壓^しくものし^し 腊法は仔細なり又
花のし^し腊^し之を^し経て色の^し重^しせざる^し法も^し腊
花の法と移^しせざ^しし^し法^し方^しハ寸^し或^しハ寸^し許^しの^し鐵
板^し二枚^しを^し透^しり^し四^し隅^しに^し螺^し釘^しを^し施^しし^し物^し腊^しを^し
思^し少^し花^し枝^し日^し中^しに^しれ^し方^し落^しち^しき^し時^しに^し花^し輪^し半^し摘^し
或^しハ^し茎^しを^し亦^しと^し連^しり^し採^しり^し粗^しき^し枝^しハ^し利^し刀^しを^し
両^し面^しより^し刮^しき^して^し薄^しく^しし^し如^しく^しつ^しよ^しあり^しころ^し厚
帛^しに^し挟^しり^して^し与^し面^しより^し淨^し帛^し二^し三^し枚^し取^しり^し
左^しの^し鐵^し板^しの^し間^しに^し挟^しり^し四^し隅^しの^し螺^し釘^しを^し施^し
定^しむ^し火^し桶^しの^し上^しに^し置^しき^し高^し宜^しく^し炙^しる^しこと^し一^し時^し許^し
よく^し乾^しき^して^し後^し腊^しと^しる^し花^し枝^し焼^し酒^し強^し水^しを^し中^し

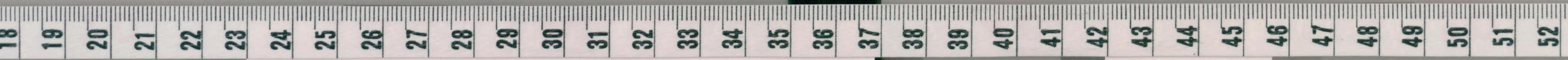
葉^しけ^しを^し乾^しし^し又^し淨^し白^しの^し紙^しに^し貼^しり^して^し新^し小^しめ^しし^しは^し其^し
ろ^しく^し花^しと^し天^し婦^しの^し美^しを^し亦^しあ^しる^しこと^しせ^しし^し一^し葉^し
大^しき^しし^して^し厚^しき^しし^し花^し枝^しを^し蓋^しを^しと^しき^しる^しに^し他^しの^し時^しと^し異^し
れ^しき^しに^し返^しり^して^しる^し

その他葉^し或^しハ^し室^しの^し脚^し跡^しを^しも^し取^しり^して^し新^し小^しめ^しし^しは^し其^し
あ^しり^して^し厚^しき^しし^し花^し枝^しの^し體^し骨^し室^しの^し體^し骨^しと^し稱^し
此^しの^し學^しに^し見^しる^しに^し蓋^しを^しと^しき^しる^しに^し甲^し子^しの^し出^しる^しに^し因^し
す

○植字及び採字の法は有用とせる書籍

答^し械^しの^し事^し

一花^し實^し解^し剖^しれ^し回^し説^し 一各^し国^し所^し産^し字^しの^し法^し



名集

一 藥鏡

一 腊葉台

一 エールンタング

一 細鏡

一 倍備針

一 花筒

一 腊花鏡板

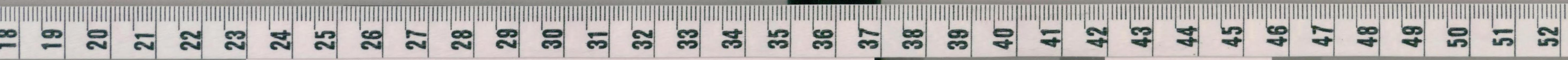
一 細刀

一 細鏡

一 顕微鏡

羊鏡花筒を採り旅行の時携ふべし
鏡ハ常時持ち方ヨリ花筒を銅で竹筒
如く造り上下を閉鏡一其筒の身三多一評を
亦と一用因自在を以て免一亦と此針を後
く亦と二様ゆゑもそのあて枝を切るべし

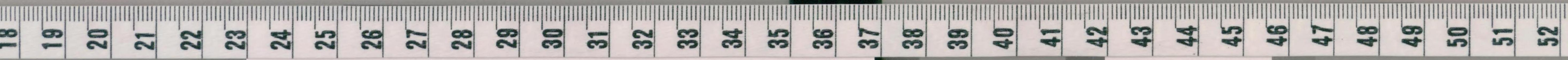
うぐねと噴灌をねば三四日成鏡して葉やま
○腊葉台は糊を以て堅紙を糊て書冊の
如し厚板と表紙と一隔り処を清紙を以て毎次
みわく博するやまを以てし○腊花鏡板を以て
の章より不細く用はる○エールンタングハ鏡子の先
尖を以てする如きもの之花其の質を計算
するに用ひ或ハ細花を以て顕微鏡下を以て
用ふ亦他用ありし○細刀細鏡ハ其の上割
き或ハ実を截り種子を以て割く事あり用甲
刀の形ハ長サ寸許を以て開サ五層以上を以て
大針と針とを以て備ふるべし如く細く剪る



やくしきむしりしちよしとん尖利たること宜
とて鏡ハ細れ有すを鏡一と他用あり
リ諸綱針ハ写真の図を他とて花葉を
出さしを刺し止免ちとてこれ外用なる多し
○影微透ハ其徑をも大なりしつるも精取
のまの代擇と借少べし葦類の葉の
只ハ鏡のこもを疊績取つ其ゆへ花葉
たせりしてまじしハ影微透よりよされば花
ごとく細く又蕨蕨影のまのうらみの金糸
水の監鏡汁の浮影。麴者望彼鏡より宛
透ハ葦草と叢林を人ら教時の用よ

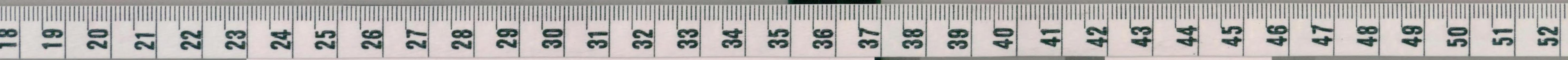
彼ハ葦花をもゆへに實を鏡ハ柴花鏡を
地よのその葉も大なりとて又橙橋の
葉等と肉眼をかく細く是はヤトも
透むし此ノ鏡を蕨とて下油とハ
裏にして津液えり人身の胞といふもの
如く鏡の中へて他此鏡の用廣たし
為一取奉一雜一美は植家家の鶴寶
とてあり

○腊葉のふたふた真形をさすは得な
べき術なり
腊葉ハ全形を腊すれば真形なるをるに



是とくをきくは付ぶるに物真形全くなし
てさうも傳き不精あるは生れ設を固に
さくものせしむるは固はしるに揚くも却り
科文れ千百言を重くするは勝を重く固百聞
一見又さるるをとり語ハ実あり然るに固
北固ハ大独丹青過実多く或ハ然るに
景ユのち抑りては場女兒筆れ款物こす系
も植学よ家の様用ユ充とまとい自ラ生景
又對臨一さ法をわづし近世本邦を希
代れら法をさす更なる人可ハ此法真を存せ
ること膳筆も括り目ツきをさすはゆふや

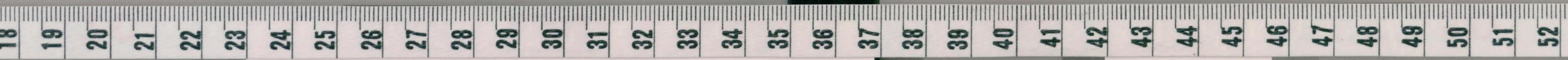
其法先り生葉或ハ全苗或膳葉括り枝三百
或ハ半日許願一これお其片面又劑子にて黒炭
を搥抹一さしを木板より其上の淨紙を
蓋し吉手にて紙とを擦れハ葉の形状鮮明に
淨紙に移りさくも人ユ寫し得りさく微細
の脈細墨墨績の妙す人仔細に既を銅板固に
さすことあり此方術西洋ヨリ傳來其
散公の巻せる和葉膳筆の書とふは
ありとすりり也
○三有北學ハいさくはく味ハ寫く好たが
至極めめ境つとす又思強固すし苑



者めあがるあれども信るぬしとけ成れ例
あまハ引ゆつてめし

稲氏若水氣ハ本邦ハその祖ふる前リ
謂くらく唐の山ハその祖仲とつて本ハ本邦
とつてつてし杜仲ハ皮ヨウヨク蜘蛛のや
たつてそのつてる木なりと物えつしつて何れ
皮ヨウヨクあるとある本なるた疑とる
杜仲又えつてるとる唐の宿又回ハ氏信
考つてたふれしと一日浴槽中ヨウ立く竹童
此ヨサキハ板を釣して直リ引くも成る時
又テウ切て同や蜘蛛のや此ハ成る

後ハ杜仲ハ是とるるとあると其身て常手と拍
子雀躍してさるるびらとつてとつて常と
思と啓すし疑ハ積と一旦豁然として偶
たつとちとあの一事なり西洋ハ其ハ西而
墨墨得又西希熟得とつて王の考と金冠ハ
もとあせしと似るし西而幾墨得と西而
亜の巧師とそ幾何学ハ長かつし時の帝
王金冠とを造つしむ王其冠ハ鉄籠と疑
感とて墨墨裁と西而幾墨得と議と幾
墨得浴と其其換法と偶ハ雀躍
と語つてお衣を脱するるとるを
味轉



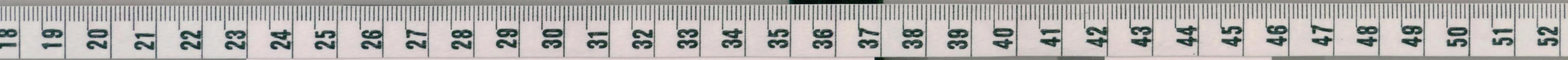
みーてコイラキキ街中と喚呼して吾是を花
の銀とを糶し撃ち落すとてはもと野玉函澤に
去る西寄岩園説録最巻に載りり義おろしく別あるととも偶悟せるの
趣似よれハゴと争うその他若水舟京都
北清木親言の詣せし時路次は竹葉中として
吉祥草と拵ねて悦ひおひぬ某の處に
て彩紅花の川口モサ辺を同撃しと真此著
草子に充るのいゝる雜纂なる多うぶりら
あつて四巻スし又先哲の記憶あるし例ハ
あつて山翁の古稀をさして後 日記に記す

まをり一日一巻の考は保川海峽の採茶を以て
安藤某一草と得ておのり同小を羽足ておのり
コナツとむとよ草あり予十三歳のとし先師
園先生はツルとと答ふいとてつく

の目録

- 一ローベル草木誌 千五百一
- 一度突乃斯同上 千六百一 華律矢鳥斯 柳産草
- 一佛蘭西同上
- 一涅乙蘭の草木史 一 舊新二板 千六百七十三
- 一アラハ公認模理徳植物培養之書 一 千七百

シニシニシ

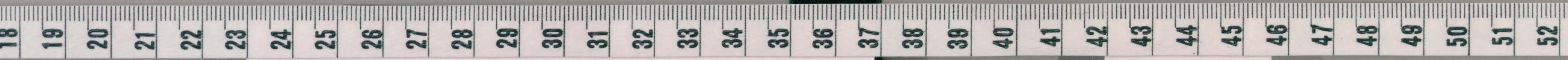


- 一 アールドケワッセし自作 一
- 一 嘉カ昂加盧都草本誌 一 千六百九十七年
- 一 レムレイドロケレイン 一
- 一 青里堂書 二 千七百四十二年
- 一 同後集 七
- 一 同續集 九
- 一 檢布帛日本誌 一 千七百三十二年
- 一 檢布帛アモミタラス 一
- 一 マラバルセコロイドホフ 三
- 一 ニユウウホウ支那紀行物産門 一
- 一 伍し都ニカトカール補刻 一 千七百六十四年

物印満

八百七十七年三月六日
至千七百四十八年

- 一 林娜斯アルツエニケワッセし
- 一 ホイテニルルガ地名 街園花誌 一
- 一 多瑪斯草本辭割書白之
- 一 律总帛同上 一 千七百四十二年
- 一 律总帛帛葉譜 一
- 一 林娜斯 三十余
- 一 非奈斯 十
- 一 ハレニテイ 十余
- 一 四羅乙斯 辭割書 三 千七百四十四年
- 一 フロウヤホニカ 一



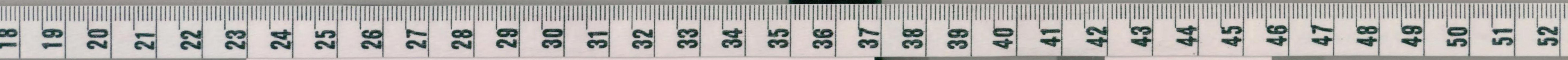
- 一 ニューウェンティート
- 一 マルチアット 四千七百七十九年
- 一 バターアセグートスカップ 卷九
- 一 スモールアック
- 一 獨乙語草木誌 三

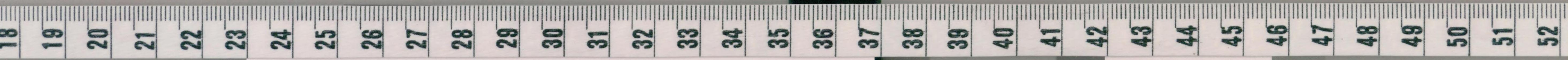
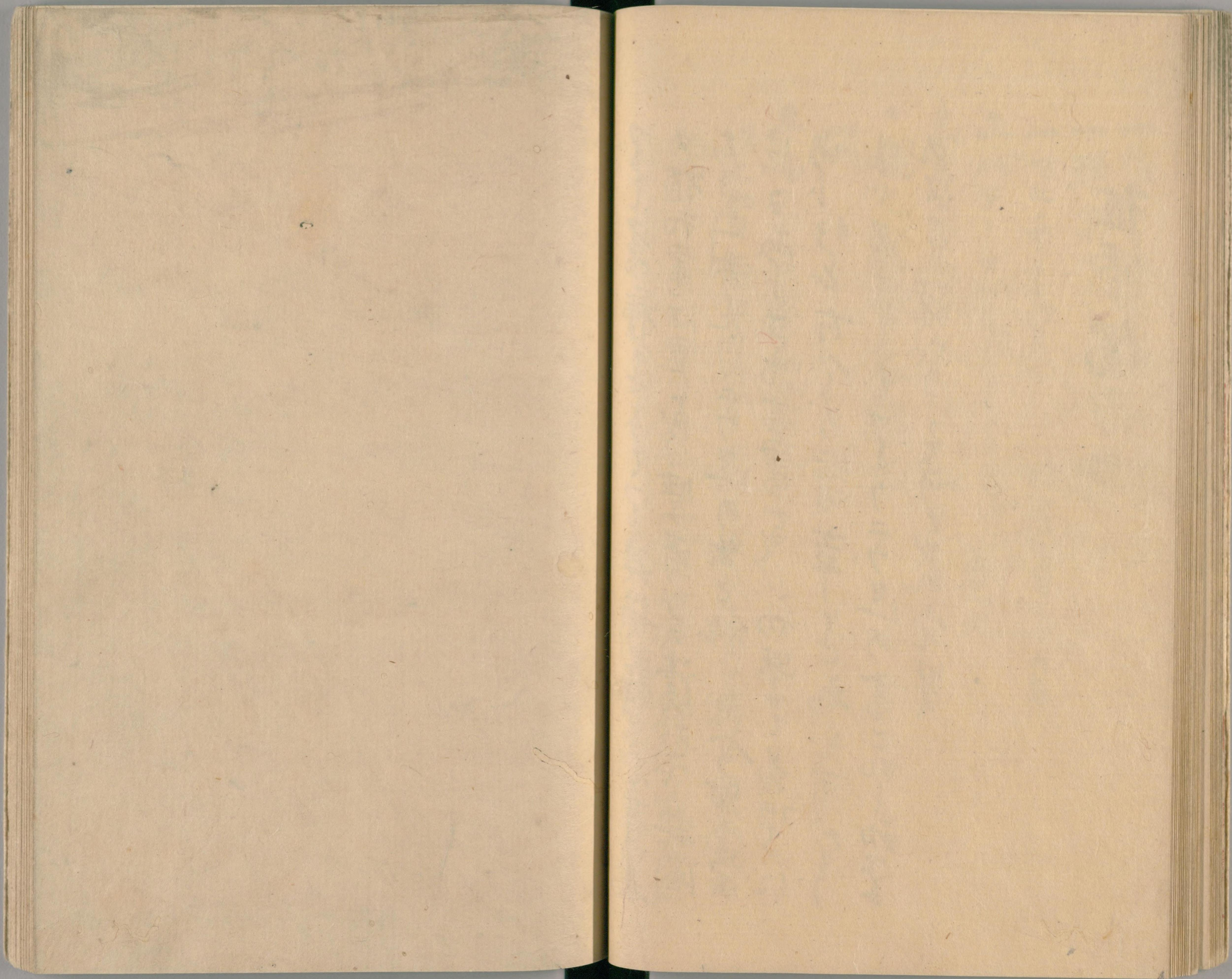
上へい舎蜜加書八

以上皆植学の有益の書なり。特ニ果園栽培
 旋ちその「リニウセ」の書と稱し林娜斯
 出世後ニ成る書なり。悉く彼師の學法子據

アとしる多の種をふてア其條裁も亦舊來
 の植書に異あり學者必ス讀むべし此園
 あり「リニウセ」の書と稱し今時の學
 法にありふる古書なり。初學にて是に
 ありと古の「ニウセ」の書に可なり
 といふるありし「リニウセ」の書に於て初學
 の必す讀むべきものなり也

植學獨語終





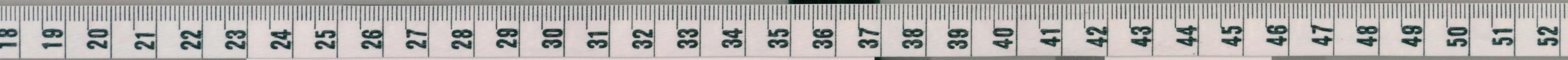
国立国会図書館 タイトル『海外事類雑纂』 請求記号 寄別14-25

ガラス使用

緋卷得師草稿卷之一

九品

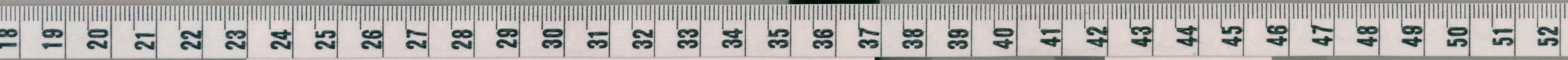
西洋ノ人 其言
西洋諸國ハ本邦ト同シク唯假
 名ナリテ文字ナシ故ニ皆言ナ
 リ分ナラ九品トス 九品トハ何ソヤ 一ニ曰 名言ニニ
 曰 附屬名言三ニ曰 活言四ニ曰 代言五ニ曰 添言六ニ曰
 接言七ニ曰 教言八ニ曰 上言九ニ曰 性言是ナリ 名言ハ
 事物ノ正名ニメ 变化スルヲ無キ者ヲ謂フ 則テ 支那
 ノ実字スハ 死字ホニ 克ル人 畜、草、木ホノ如キ 有形
 ノ物アリ 徳義ホ 智ホノ如キ 無形ノ物ニ至ル迄 一切称



名アル者ヲ兩カ云フ「カノニシ」則テ四格ナリノ的テ阿華唯
此言ニ附ク一附屬名言ハ一ニ形名言或ハ副言ト名ク
此ハ名言ニ附接ノ其大小輕重黒白ホノ形状態
度ヲ踰ハス言ナリ 譬ヒハ白馬ト謂フ中ハ馬ハ
名言ニメ死言一白ハ其色ヲ踰ハス言ナレハ則テ
附屬名言ナリ而シテ此言ハ常ニハ名言ノ上ニ在リ
テ白馬大ナル人賢ナル婦人ホトアレ氏此ヲ精シク
言ントスル中ニ此言七八箇ニ重ナルイアリ 譬言ハ白
ク少シ灰色ヲ帯ヒ太ク而メ疾ク驅ル馬ト云カ如シ此中ハ
白ヨク驅ル迄ハ馬ニ附屬スル言ナリ又ユレテ下ニ

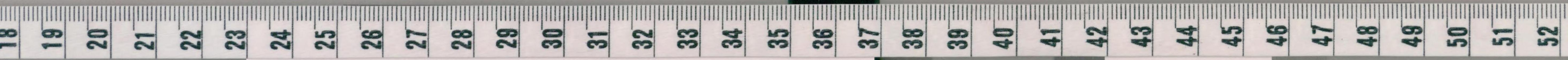
置クフアリ馬所白ク少シレ灰色ヲ帯ヒ太ク而メ疾ク驅ル或
ハ又所ノ字ヲ除キテ馬、白ク少シレ灰色ヲ帯ヒ太ク而疾驅リタ
ル此中ハ驅ルノ言カニク過去ノ意ニナル但シ同シナリト云フイモアリ此ハ西文ニむモ多シ
心ヲ用テ知覺スヘシ

此言ハ常ニ他ノ如クニテ名言ノミヲ註解スルモノナリト知
知ルヘシ又上ノ文法ニテ和蘭ノ言拾ノ本邦ニ異ニメ此ノ如
キ中ハ語尾ノ動ク言則テ驅ルホナリヨク名言馬ニハ躍スルヲ知
ルヘシ一活言ハ漢ノ動字或ハ活字ニ当ル言ナリ假令ハ
一打ツ見ル思フホ皆是ナリ但シ此ニ二様ノ別アリ一ハ白
活言ト云ヒ一ハ他活言ト云フ白活言ハ自ら活動ノ具用



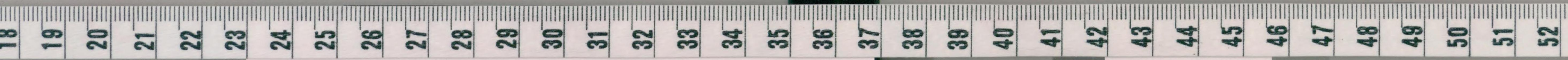
他ニ及バサルモノヲ云フ気来ノ活動ノ言ニテ人一兩フニ流ル
映スルホナリ人來ノ活動ノ言ニテ人一死スル一羸ル啼クホ也
他活言人信^信動ノ用ヲ他ニ及ボスノ言ナリ假令ハ大凡樹木
ヲ摧折スル云フ中ハ摧折スルノ用樹木ニ及ビキ大凡ニ及
バサルカ知レ又氷山根ニ流ルト謂フ中ハ流ルハ自活言ナル
ヲ以テ流ル、用水ニ在リテ山根ニ在ラズ以テ自他ノ周ナル
所確實彰明ナリ故ニ打ツ衝ク投ルホノ一切ヲノリ
ニテハアルニ非カレハ解セザル言皆他活言ナリト知ル也
但シ自活言モ言ヲ添テ他活言ノ状ニ変セシムルナリ
則チ一令ノ言ナリ故ニ上ノ兩ル光ルホノ自活言ニ令ノ言

ヲ添テ兩ラシム光ラシムト言フ中ハ「言アル名言ヲ附テ
詔ル」ヲ得ベレ假令ハ砂ヲ兩ラシムホノ如シ總シテ活言
ニハ自他ノ別ナク三世ト云フモノ附属ス三世トハ過去現在
未來ノ三時ヲ謂フ之ヲ自活言ニテ言エハ兩ルハ現在兩ラ
シハ未來兩フリタハ過去トナルカ如シ他活言モ此ニ準ス
推シテ知ルベシ但シ此三世ヲ示ス言ヲ助言ト謂フ漢ノ
助字ニ当ル活言ヲ補足スルヨリ名トス可シ一將一類ホノ如
キ類ナリ此モ亦自他ノ別ナリ故ニ或ハ之ヲ九品ノ下ス
然レ本ト是レ活言ヨリ來レハ活言ニ依ヤルヲ良ト
ス又他活言ヲ變レテ自活言ト如クニナス言ナリ所^{モラル}被



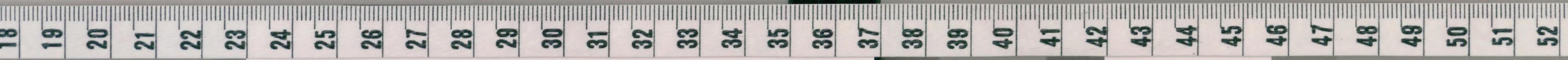
ノ字是ナリ故ニ他活言ニ之ヲ添テ打タル、衝カル、ト云フ中
カノテニテ人アル語言ニ在シ一代言、此ハ上或ハ下ニサス
物アリテ此ニ代リテ言フ言ナルヲ以テ爾カ云フナリ假令ハ
初メ日月星辰ホノ事ヲ云フ井ハ其下ニ之ヲサシテ彼ト云
ヒ此ト云フカ如シ九ノ兩向ノ諸物吾ト汝トヲ除ケハ皆彼
此ホトサレテ言フヘシ然ルニ西洋ニハ其指スモノ日月星辰ニ三
性アリ、三性トハ男性女性中性ノ三ノ者ヲ指フ猶支那ノ
字ニ四声アルカ如ク一般ナリ故ニ萬物ヲサレテ同シク俱
ニ彼ト云ヒ此ト云フト鏡長皆其指ス物ノ性ニ從テ彼此ホ
ノ言同シカラス男性、集ノ彼ノ用ヒ女性ニハ某ノ彼ヲ用

ヒ中性ニハ某ノ彼ヲ用フ其他「カ」拾ノ彼アリ「ハ」拾ノ彼アリ
「三」拾ノ彼アリ「カ」拾ノ彼アリ又單ニ一物ヲサスノ彼ア
リ位セテ數物ヲ指スルノ彼アリ如シ又物ヲ指ス彼アリ事
ヲ指ス彼アリ或ハ遠クヲサス物アリ近キヲ受凡者アリ
是ヲ以代言ノ數隨ル多レ西文ヲ讀ムノ向其初メは洋
解ニ在キモノハ唯此代言ノ一ニ漢ニモ彼此其之斯維
厥ホノ此ニ当ル可キ字アレ其數極メテサナク以テ類ヲ
分テテ自各ニ標當ノ文字ヲ填寫レ在シ但レ之ヲ詳ニセ
ントスルハ初学ノ專務ニ非ス且ツ其事繁冗ナルヲ以テ
却テ其茫洋ノ迷アリ又此ハ別ニ詳ニ解ケル書アリ

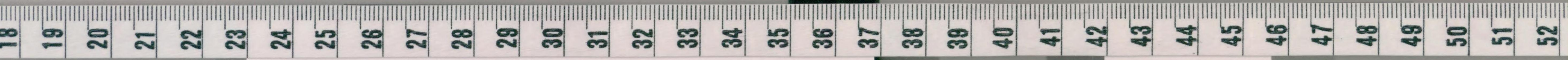


ハ親シク此書ニ就テ見テ良トス(添言)ハ活言ニ関係シテ
其形状作用ヲ顯ハス言ナリ其形テ一ニ附屬名言ノ名言
ニ関涉ノ是作用ヲ説明スルカ如シ例スルニ(此馬ハ疾ク
行クト云フ辞)アラニ此ハ上ニサレ或ハ目前ニサレテ云フ
モノアルユニ代言トス馬ハ名言ニメ動カス言ナリ行クハ支
那ノ動字ニシテ^(西洋)活言ナリ疾クハ行ク状ヲ定ムル言ナレハ
添言ナリ常ニ此ノ如キ添言ハ活言ニ添フモノト知ルヤレ
但レ大ヒニ勇悍ナレハ人ト云フ中ハ大ヒニ添言ニ勇
悍ナルハ附屬名言大レハ名言ナレハ此中ニ添言動ク
言ニ属セズ直チニ附屬名言ニ連ル然レ氏添言ハ直チニ名

言ニ連係スルナキヲ以テ是亦添言タルヲ知過スレ若シ
夫レ之ヲ直チニ名言ニ接スル中ハ大ヒニ人ト云フ語トナル殆
ント解スベカラサルノ言ヲナスナリ尤モ愛セラル、人強ク吹ク
凡^{愛セラル、吹クハ固活言ナリ然レ氏名言ノ上ニ在ル中ハ}ホノ語ニハ尤モ
強クハ添言ナリ概シ添言ヲ論スレハ大小多少夥多
屢頻有毎ホノ直チニ実字ニ関ルナキ言ナリ支那
ノ虚字ニ当ル一接言ハ二言ニ辞ヲ連接シテ一トナスノ言
ナリ例スルニ(予)キ汝ト此事ヲ為スト云フ中ハ(ト)ノ字ハ
則チ接言ナリ二言ヲ^予汝ヲ以テ一トナセハナリ又(汝)何
某ノ書ヲ貯藏セハ予ニソレヲ貸シ呉ヨ。一ト云フ中ハ

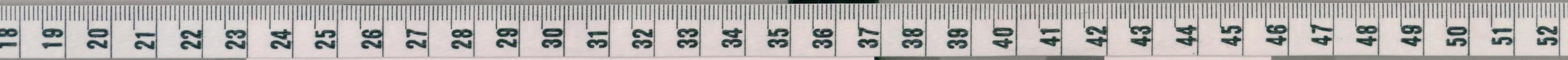


セバ一ノ假字ハ則チ二辭ヲ接シテ下ニ及ボス言ナレハ又
接言ナリ但シ西文ニハ此ノ如キ文ニテハ常ニセバ一ノ字上ノ
辭ノ首ニアリ今此語ヲ西文ノ体ニナセバ一セバ何某
ノ書ヲ貯藏。其ヨリ具ヲ貸シトナル其他中ハ何
カスル然ル中何ハカニト書クヲ常ト是レ預ヲ知ラ
ズンバアルベカラサルモノナリ詳ナルト下ノ文法ヲ論ス
ルノ条ニ出ス是ヲ以テ註則。故却。然則。ホ皆此接言
ニ属ス種々極ナラ多シ故ニ西人之ヲ區別但シ此等ハ別ニ
精究ノ書アリ初学ノ専ラ門ニアラズ又贅セス(数言)
ハ物ノ員数多クヲ顯ハス言ナリ之ヲ二種ニ分ツニ治
定数言ト云フ一、十、百千ホノ定マル数ヲ言フニテ不定
数言ト云フ諸、各、多クノ。カレホノ幾多ヲ治定セサル
言ヲ言フ此ハ名言ニ添テ一人、二人、諸人、各人、一ホト云
フ中ハ附屬名言ニ類シ(此ハナリ百ナリ或ハ此ハ多ク
或ハ此ハ少ク)ホト云フ中ハ添言ニ類スレモ確トメ此ニ言
ニ異ナリテ辨別スベキノ道理アルヲ以テ區別スル也
詳ナルト下ニ出ワ却テ見ル可シ(上言)ハ常ニ名言
ノ上ニ在ルヲ以テ名トス而メ名言ノ所在申来連属
ヲ明ニスル言ナリ於、從、自、以、中、外、上、下、左、右、前、
後、ホノ字此ニ当ル例スルニ何某書於、何某之南窓



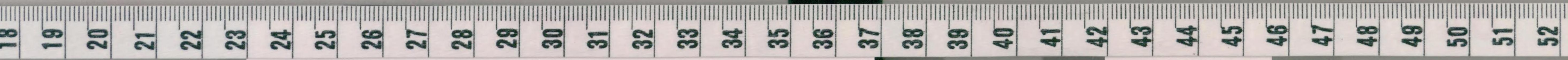
ト云フ中ハ於ノ字南定ヲ關法ノ其書曰スル如ク明ニ
スルナリノ支那ノ文ニハ此ホノ字又実字ノ下ニアル
多シ則チ手後、窓下、屋後、庭前、園中、ホ是ナリ
和蘭ニテハ皆此上ニ在リテ午後、窓下、前庭、ホト云
フテホ邦ノ人、之ヲ譯スルニ常ニ此言ニ下ノ名言ヨリ
直ニ譯シラ上ニ升リ譯スルナリ以上八品ハ和漢共
ニ存ス然レハ人未タ此ヲ分別セケルナリ偶々此ヲ
死活ニ分テ或ハ虚助実動ホ別ツテアレハ未タ精
シカラサルナリ然ルニ西洋人ノ言中ニ別ニ一種倭漢ニ充
ツ可キノ字ナキ言アリ之ヲ性言ト云フ此ハ名言ノ上ニ

冠也其三性性男也ヲ示スノ言ナレハナリ先人或ハ此
ニ此其個ホノ漢字ヲ填メ得タリトス是レサシハ道理
ナキニモ非スト然具実ハ牽強ナリ故ニ之ヲ非トス友
人予ニ准メ曰ク和蘭ノ名言ハ其数幾何アリヤ予
答テ曰其数夥多亡慮之ヲ筭定レ准シ其理何ント
云フ活言モ轉メ又名言トナル假令ハ見ル聞クホハ
亦活言ナリ之ヲ一見ルト聞トハ其時ト同フセズ見ル
早クメ聞クハ遅シト云フ中ハ活言ノ見聞ホハ直チニ
名言トナル其他添言接言数言ホノ名言トナルモ
皆此ノ如シ但シ亦来ノ名言モ亦千万ヲ以テ数フ



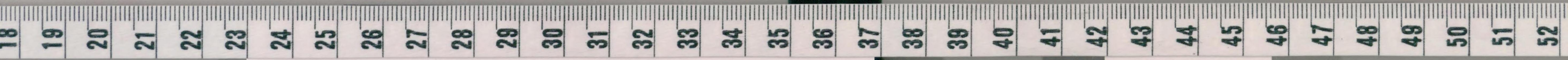
可シ又問テ曰ク西人ハ遍ク其名言ノ性何ニ属スルヤヲ
知覺スルヤ答テ曰吾日月ノ間ニ於テ言詔尺牘ニ在ル
所ハ慣習ノ久レキ無智ノ小人ト虫也知ラズ覺ヘズ
自然ニ之ヲ得然レモ雅言言日常用ユルヲ稀ナル者ハ
博識優才ニシテ修文ノ徒ニ非カレハ之ヲ詳ニセズ故
ニ唯此三性ホノミヲ示シテ彼邦人尺牘ヲ書スルニ便
ニスル書モアリ又問テ曰ク然ラ則ク名言ニ三性ナクシテ
可ナラシカ和漢俚ニ此性言ナシ文ヲ綴リ言詔ヲナス
各其意ヲ達ス又効ナシ凡ソ西人ハ事ニ於テ精ヲ盡
スト虫也如此近遠ニシテヨク人ノ知リ難キヲ建ルハ益

シ精・失スルニ命スヤ予答テ曰然ラズ是レ勢ノ止トシ能
ハケル所ナリ若シ名言ニ三性ナキハ「テニチハ」ノ格ノ分
別知レス且ツ代言ニ至テ錯雜乱ノ竟ニ解ス可カラ
ケルニ至レハナリ假令ハ支那ノ文ニ一老人與客泛舟
遊于長江童子從之々々ノ辞アラレモ後ニ老人客
童子ヲ云フ中ハ漢文ニテハ直チニ老人ト謂ヒ客ト謂
ヒ童子ト稱ス然レモ蘭文ハ假字ニシテ字ナク又其名ヲ
復シ言エバ甚ク變ニ至ルヲ以テ挽メ彼ト稱ス然ラハ
則チ彼ハ老人ナリヤ客ナルヤ將タ童子ナルヤ解シ難
キニ至ル之ニ如フルニ西文ニテハ一句中ニ必ス主格ガノ名言



アルヲ常トス假令ハ征韓軍中清正言行長曰韓軍
令竊殺兵但貪私利何為高賈之行哉ト云フ中ハ
本邦ニテハ此ニテニヲハシテ添テ一譯調シテ則チ解ス
然レモ西文ニ符セサル所アリ具理何ント云マニ征韓
軍中トハ清正言行長ヲ置ル如ク示スノ言ニ清正ハ則
チ置ルノ用ヲナス主ニテ言行長ハ則チ置ラルノ容ナリ
一句中主格^容ヲ備ル故ニ蘭文ノ法ニ符ス然レモ此下ノ
背軍令竊殺兵但貪私利ノ句ハ此事ヲナスノ主
ナレ故ニ蘭文ノ法ニ合セス是レ此事ヲナス者ハ言行長
ナルト昭明ナレハ漢ニテハ之ヲ略スルナレモ蘭ニテハ法ニ

ニ合セサルヲ以テ必チテ此ニ汝ノ事ヲ添テ曰汝背軍兵
トナス又何似高賈之行哉ノ語モ亦西文ニ符セズ何ント
ナレハ是ニテ何事カ高賈ニ似タルヤ解セス但シ貪私
利ノトハ曉ル可キナレモ是レ必竟一句中ニ主^カノ名言
ナキカ故ナリ此モ蘭文ニテハ何此^{貪私利ノ如ク受テ言フ}
似高賈哉トス^{但シ此文字蘭文言ノ通キ如ト異ナレモ必竟西文}
蘭文ニテハ皆此ノ如ク一句中ニハ必ス一主格ノ名言或
ハ代言ヲ置クヲ以テ一段中ニ彼是^{其ホノ}諾五六箇モ
乃至七八箇モナリ故ニ代言ニ三性^{男中ノ}ヲ備ル者遠
近ヲカス者事物ヲ受ル物才ノ種々ノ異別アラザレハ必



ラズ紛乱ノ謬誤ヲ免レストス是レ又名言ニ三性ナク
ンバアル可カラザル所ノ以ナリ性言ヲ二種ニ分ツ一ヲ治定
性言ト云ヒ一ヲ不定性言ト云フ治定性言ハ文字ノ如ク
名言ヲ治定固決スルノ言ニシテ或ハ前後上下ノ擧アル
ヲ兼テ言フモア不定性言ハ其名ノ如ク名言上ニ
在リテ其言ヲ固定セズ在 廣廓ト指シテ言フ兩ナカラ
「カノニテ」ノ四拾ニ從ヒ兼テ是下ニ在ル三世ニ從テ言尾
少シク變易ス故ニ性言ハ高カラ名言ノ四拾ヲ示スノ
一標的ナリト初學ノ間ハ知覺モ亦可ナリ蓋シ此ホノ
事ハ蘭唇ヲ觀ク讀テ其文中ニ就テ探索セハ自然ニ

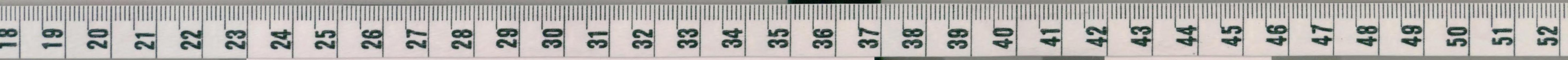
其味ヲ得テ自ラ融會スルナリ有レ
以上示ス所ノ九品ハ西洋人其言ヲ區別スルノ大略ナリ
然レハ古昔ハ分言申テ以テ九品中ノ一トナシ數言ヲ
省キテリ方言ハ活言ヨリ出テ、或ハ附屬名言ト
ナリ或ハ添言ノ形ニナルモノヲ云フ假令ハ愛セラルハ
人ト云フ中人愛セラルハ活言ヨリ出テ、人ニ附屬ス
ル言トナリノ物ヲ推テ来ルナト云フ中ハ来ルト云フ
活言ノ用是ラナルヲ補フ言トナレハ本来ハ活言ナ
レト添言ヲ捨トナルカ如シ概メ蘭文ハ一勾ノ中ニ主格ノ
名言一箇添言一箇トス是レ体ト用トノニツナリ故

ニ見^ル夕見^ルべし^レホノ夕^バベシ^トノ助言アル中ハ活言ハ
副ヲ方言ナリト知ルべし益^シ之ヲ九品中ヨリ省
ク所以ハ名言ニ此言附ク中ハヤハリ附屬名言カ格
トナリ活言ニ附ク中ハ添言ノ格トナレハナリ
~~此言~~ 言 連 屬 間 於 數 言 ノ 言 詔 連 屬 間 ニ
於テ其行在確トノ他ノ言ニ異ナルカ如クナラス是レ近末
方言ヲ省キ數言ヲ如ヘテ言類ノ九品ヲ定ムル所以ナリ

四格

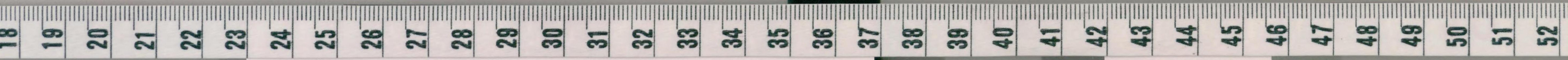
九ノ言語ニハ必ス格アリ格アルヲ以テ言語ヨク人ニ通ス
父ハ其言語ヲ竹措續ニ載スルモ^ルナリ^ノ亦格アリ我邦

人之ヲ底尼阿華ト云フ猶漢ノ父格アルカ如シ若シ我
邦ノ言ニ此^テニテハナキ中ハ人言語ヲナス能ハス譬^ニエ
バ予ニ筆ヲ共ヨトムフ^ト言ハシ^ニニカ^ノ格ナキ中ハ言
ヲナサハルカ如シ漢文ニ文字ノ位置轉倒^スレバ其父解^ス奇
カラリルニ至ルカ如シ西洋ノ言語父章共ニ格アリ法アリ
ラ此言ハ何ノ格タリ彼言ハ何ノ格タリ此章ハ何ノ法
タリ彼章ハ何ノ法タルヲ知り而ノ後其言語父章始
メテ明亮ナリ^ルニ我邦ニテハ此^テニテハト云フモ
言バノ尾末ニ附クヲ常トスルニ西洋ニハ此^テニテ^ニ當ル
ベキ名言ノ上ニアリ則テ性言ノ屈曲變化ヲ以テ此ヲ定



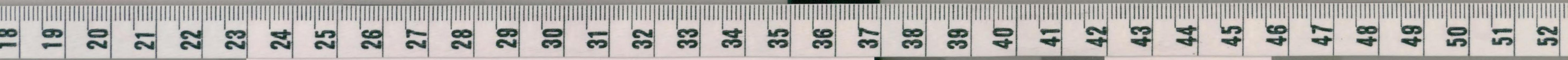
是レ西文ノ我邦ノ文ト異ナル所トス第一格ヲ主格ト云
我邦ノガ或ハハレノ假名ニ当ル此假名ノ附ク言ハ一句中
ノ主格ナリ假令ハ草ホ也又生スト云フ辞アル中ハ生スルモ
ノハ草ホニメ其主タルカ如シ又草ホ向夜陰則吐息気
ト云フ辞アル中ハ吐息気モノハ草ホニメ自ラ吐クヲ致
スモノナリ若シ夫レ只向夜陰吐息気ト云フ中ハ其主タ
ルモノナケレバ何等ノ物カ然ル気ヲ吐キ去スヤ知ル
能ハス是レ此格ノ主格タル所ナリ但シ此標的トナ
シ見ル可キ性言ハ *花* 或ハ *馬* *花* 或ハ *馬* *花* 或ハ *馬*
則 *花* 或ハ *馬* *花* 或ハ *馬* 又此標的ナレシ

常ニカハノ假名 言中ニ備ルモノアリ則チ
花 *馬* *花* *馬* *花* *馬* *花* *馬* *花* *馬* *花* *馬*
立シタル言ニガハノ假名ヲ附クベキ者アリ是ハ文章ノ上ニ
テ是ハ必スガハノ格ナル言ト定ムナリ或人捕鳥ホノ
語ノ如シ是ハ中ニ西文ニモ此標的ナレ然レ氏鳥カ人ヲ
捕ルニハ非スト文章ノ上ニ入解シテ或人がハノ假名
ヲ附ケテ訓スルナリ通常カハノ格ニナル言ハ升格ノ
言ヨリハ初メニ在ルナリ然レ氏父勢ニテ升格ノ言ヲ
主格ヨリ初メニ定ムナリ此中ハ甚多解シ在キ
アリ然レ氏父ハ上ノ如ク前後上下ノ父意ヲ以較照考



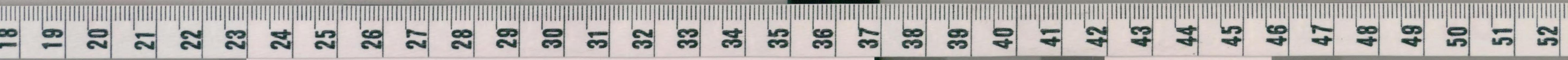
スレハ容易ニ知ルナリノ才ニ格ハハノ假名アタル格ナリ
之ヲ生格ト云フ是レ己ヨリ言フ産ニ出レ或ハナ言テ
定メ明カニスルノ言ナリノ譬ニハ花ハ復郁タリト云
中ハ何等ノ花カ知ルナリ能ハスルハ梅ノ花ト梅ト
花トノ間ニハレノ假名ヲ加エテ之ヲ連属セシムレハ則チ
解スベシ花ヲ生スルモノハ格ノ梅ナリ又花ノ主ヲ明
カニスルト云テモ可ナリ是レ生格ノ各起ルナリ
其他金ハ環 イキリスハ人ホ一切ハノ假名附ク
各言ハ皆以格ニ属ス但シ我國ニテハハノ假字モ亦
名言ノ下ニ在レ氏和蘭ニテハ常ニ名言ノ上ニアルナリ

花之梅環之金ホナリハ格ノ言名数多連ルナリ
要スル中モ皆同シ假令バ香ノ花ノ梅ノ庭之菓ト云フ
口如シ西文ノ上ニテ此標的トナルモノハ *Kan. - ch.*
den. - den. - ened. - ヲナリカレニ近頃ウルズ
ト壹系ノ招牌ニ西字アリ何等ノ愚ナル西洋学ノ
徒力書キシヤ知ラス *Wasson's m. m. m.*
ト云フ語アリノフコイムハ穢誕ノ事ニテ病ノ名ニハ
非スニツトルハ媒助ト云フ本意ニシテ *genus mid.*
del ト云フ中ハ治療ノ媒助ナレハ兼ト云フ義ニナリ
腹ヲ清解ニスル媒ト云フ甲ハ下利ト云フ義ニナル一語ニ
Wasson's m. m. m.



テ兼ト云フ義。非ス此モ亦抱腹ニ堪ルニシテ云フ
カレノ假名ニカル字亦邦ノ文ノ如ク言ノ下ニ在リ吾ヲ
西人トシテ見セシメバ何等ノ詔カ陰言カ解セズ按
スルニ疾ノ兼ト云フナリ是レ亦ヨリ取テ論スルニ
足ラサレモ西文ヲ道理ノ言ハシカ為ニ此ニ贅ス等三格
ハ三ノ假名ニ当ル之ヲ共格ト云フ假令ハ一生書ヲ親
友ニ送ルト云フ中ハ書ヲ共エラルモノハ親友ナレハナリ
此モ亦其附ク可キ名言ノ初ノニ 此標的トナルモノ
アリ *dem. amen. honor. et. de. velle. et. m. u. n. d. e.*
ナリ 或ハ又別ニ確トシタル上言ニテ此ニ附クナリ

則テ *dem. amen. honor. et. de. velle. et. m. u. n. d. e.*
係ノ少シ異ル所アレモ先ツ三格ノ標的トシテ名言
ニ後セラル名言ニ附クナリ 假令ハ陶淵明ハ頤フル
菊ヲ愛スト云フ中ハカハ格ノ淵明ヨリヲ格ノ菊愛
受ルナリ 此語ノ標的トナルモノハ *dem. amen.*
ハ等三格ニモ亦有リ故ニ或ハ眩惑スルナリ然レモ
此時ハ勤ク言ヲ見テ深ク味フ中ハ忽ケ知レハ假令ハ
溢ル流ル映スルホハ自治言ニ其用ヲ他ニ及ボスナ
キ言ナリ故ニ次大川溢ルトアルトキハ溢ルハ自治言
ナレハ大川ニ三ノ假名ヲ添テ大川ニ溢ルハ讀ムハシ



大川ヲ濫ルハトハ刻シ難シ来ル行クホノ言モ此ニ同
類推ヲ知ルベシ又讀ム打ツホノ他活言ニ其用ヲ他
ニ及ボスノ言ナレハ此ニハ送格ヲ添テ刻スヘシ即チ
或人春ヲ讀ム又人ヲ打ツホナリ此ニ由テ此言ハ牙
ニ格ナリ彼言ハ牙四格ナリト分明ニ辨知スヘシ
又活言ノ性ニヨリテヨシチノニ格ナケレハ解ス可ラサ
ルモノアリ其ル送ルホノ羨也此言文章中ニ在中
ハ常ニヨシチノニ格ノ名言アリト知ルベシ則チ其ラレ
人送ラル人ト共ル物ト送ル者ト必ス存スルナリ
假令ハ一儒生書「何某ニ送ルホノ如シ是レ西文四格ノ

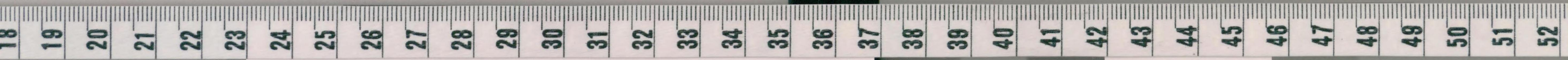
大略ナリ然ルニ中古彼邦ニテ六格トシテ此四格ノ外別
ニ呼格奪格ノニ格ヲ立ツ呼格ハ事物ヲ呼フ中ハ用スル
格ナリ本邦ノヨシチノ假名ニ当ル假令ハ何某ヨ花ヨ
月ヨナリト云フ如シ蘭文ニハ此標的ニ〇又ハ一ア
リ奪格ハ其因テ起ノ原或ハ其為前ノ標準或ハ其
用ヲナス器械ホヲ明ニスル格ヲ云フ譬言エハ爰ニ梅
花昨日奔莠等今日謝スト云テ詔アル中ハ何ノ原因ニテ
此ノ如ク忽チ謝シ去ルヤ疑惑セラルヲ敬ス然ル中ハ
因風雨今日謝スト云フ中ハ人其惑ヲ敬スベシ然ラハ
則チ因ヨリノ字見テ重シ此字ナキハ連言解ス可

カラス又先生弟子ト云フ語アリキハ何等ノ為メニ
責戒スルヤ責セズ此時ニ不勸業ト為ノ一字ヲ以
テ其標的ヲ明ニス又伐木ノ語アルニ何ヲ以テ之ヲ
伐ルヤ知ル可カラス芥ヲ以テ之ヲ伐ト云フ中ハ容
易ク了解ス可シ此時ニハ以ノ一字ヲ以テ是若越ヲ
明ニス可シ故ニ此格ハ因^{ヨリタリ}為^ル以^テホノ言ヲ以テ言フべシ
蓋シ此ニ格ヲ今世省ク所以ハ呼格ハ文ノ上ニテ〇又ハ
一ノ科目アリテ知ル可ク其他ハ主格ト異ナルヲナリ
意ニ亦此ニ同シ故ニ之ヲ主格ニ候セラ良トス又奪格ハ
上言ヲ假リ用ユルニ非カレハ必ス常ニ其格ヲ示ス能ハス

故ニ塵ク取リテ之ヲ論スレハ言物ノ不足ヲ補給スル種
ノ添言アリ今此ヲ有キテ言格ニハ入レラル所以ナリ
又此格間々予ニ格ニ属ス可キ所アリ則チ人自和蘭
分画自金ホノ差ナリ此ハ和蘭ヨリ来ル又金ヨリ製ス
ル盆ホノ来ル製スルノ活言ヲ略スルナリ此等ハ親レク
西書ニ就テ精ヲ得ベシ又贅セヌ

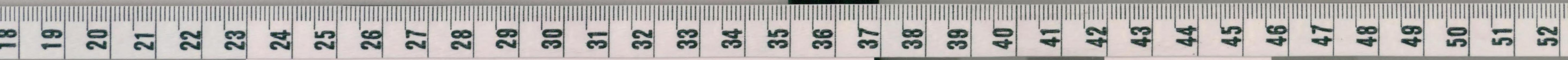
單複

西洋ノ諸名言必ス單複アリ單トハ唯一箇ノ物ヲ
稱ス複トハ一箇ヨリ以上數多ノ物ヲ稱ス假令ハ馬ヲ
蘭語ニテ *paard* ト云フ是レ一足ノ馬ヲ云フナリ故ニ單稱



トス文 *passidem* 唯言ノ尾ニシテ付ル中ハ数正ノ
 馬ト称スルナリ故ニ複称トス概ノ言ノ尾ニシテ付ル
 中ハ複称ナリト知ルヘシ西洋ニハ此ノ如ク諸名言ニ皆
 此單複アレ氏本邦ニテハ唯代言ノニ此別アリ則テ
 吾汝彼ノ單複ヲ複称ニテ吾侪江輩彼等トナルカ
 如シ然ルニ本邦ニテハ代言單複ノ別ハ言ノ尾ノニ違フ
 ト如ク蘭ニテハカノニテハ四格ニ從ヒ單複ニ因リ男女
 中ノ三性ニ由リテ大ニ異ナル言トナル
 單称ニテ主格ノ言ナリ複称トナレバ
 トナルカ如シ又コナレ格ニ用ユル上ノ吾汝彼ハ單称ニ

ラト *my* *in* *hem* ト云ヒ複称ニテハ *and* *one*
hem ト云フ者ナリ 但シ汝ノ言ハ主格ト自余ノ格トニ由リテ異
 又三性ニ由リテ異ナル所ハ女性ノ名言ヲ受テ称スル代言
 ニハ單複ノ別ナキカ如クナレ氏此ハ主格ノ代言ナレハ此
 ニ附屬スル活言單称ニハ言尾ヲ短フ以テ複称ニ言尾ヲ
 長クレ別テ昭然區別アリ例スルニ *hem* ハ單称
 ナリ *hem* ハ複称トナルカ如シ女性ノ代言與後
 ノニ格ニハ單称ニモ *and* ト謂ヒ複称ニモ *and*
 ト謂フ其他中性ノ名言ニ受クル代言ハ男性ノ代言ノ



女性之言

van Naar

de Kraank Naar

中性之言

van Kind by

van Kind by

van Kinde van Kinde

van Kind Kinde

van Kind Kinde

o Kind Kinde van

以上尊称

男性之言

van Naar

van de Naar

van Naar

van de Naar

de Naar van

de Naar

van Naar

女性之言

de Kraank by

by

de Kraank

by Kraank

van Kraank

van Kraank

de Kraank

van Kraank

de Kraank

van Kraank

de Kraank

van Kraank

中性之言

中性之複称ハ皆男性ノ複称ニ同レ故ニ畧ス

以上複称

活言 主格ノ名言ノ尊複ニ從ヒ三世

ニ由テ變易スルヲ表ス

未来

死

尊

de man by

zal

sterken

de Kraank by

zal

sterken

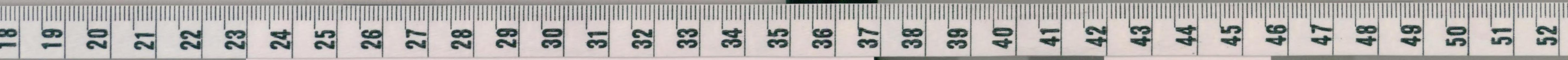
左ニ示ス所ハ実ニ一枝片玉ナリ初学ノ向此ニ由テ先ツ其
梗概ヲ曉ラハ別ニ西竹籍ニ就テ其真面目ヲ視ルヘシ。
尤モ精シ又寄港吉雄如淵翁拂郎察語ノ文法書
翻シ蘭文トナシ語法解一卷ヲ述フ是亦簡易ニシ
初学ニ便ナリ

^{答字} 近頃舶来ノ勿以即度ノ語法解 原各スアラリクニシト

四法

和蘭ノ文法四法アリ一ヲ直説法ト云フニテ附説法ト
云ヒ三ヲ使合法ト云ヒ四ヲ疑問法ト云フ直説法ハ直ニ
ニ事物ヲ説明スル義ヨリ来ル附説法ハ獨立シテ

又ヲナエテ得ス常ニ必ズ直説法ヲ獨ラ其義始メテ
發明ニ至ル又直説法ノ文之ヲ得テ其文意ヲ補足スル
アリ俱ニ是レ互ニ相離ルヲ能ハサルカ故ニ或名アリ使合
法ハ人ニ向テ事ヲ命スル中ニ用ニ疑問法ハ事物ヲ人
ニ質問スル文ナリ故ニ使合法ト疑問法ハ少ク直説
法ト附説法ハ多シ直説法ノ文体ヲ知ルノ標的ハ主格
ノ名言ノ下ニ直ニ活言アル者ナリ又文ニ因リテ是添言
アリテ夫レヨリ活言主格ノ名言トアルヲモアルナリ然レモ
畢竟文ノ初メニ活言アルヲナシト知ルヘシ此文ハ其名ノ如
ク獨立ノ文ニナスヲ以テ常ニ活言ヨリ上下ニ轉移メ割ス



ルナレ今二三ノ例ヲ左ニ示ス

性言 名言 活言
一婦人ト死ス 現在
添言 活言 又性言
昨日死一婦人

直説法正体
直説法変体

此ニ法ハ俱ニ直説法ノ体ナリ然ルニ此ヲ以テ一章ヲナスト
能ヒ人此文ヲ見テ此婦人死スルハ何故カ其死ヲ知ルト
能ヒ其死ノ因ヲ起原スル所ヲ知ラズ是レ附説法ノ起原

スル所ナリ)
為^{格言} 彼^代 以^{格言} 勞^{名言} 瘵^{名言} ニ嬰^{格言} ルカ

附説法

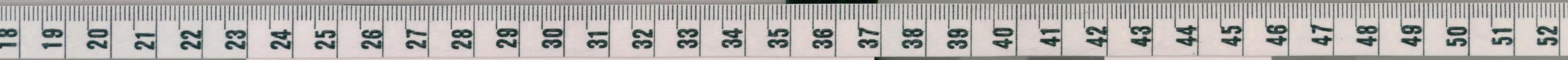
此ノ如ク直説法ニ附説法連体ヲ其死スル所以始メテ分
明ニ至ルナリ然ラ附説法ハ直説法ノ又對シテ名言ノ

最下ニメ文ノ終リニ在ル活言コソ直ニ上ニ飛躍ノ接言ニ至リ
直説法ノ文意ニ文ノ其餘義ヲ申明スルモノナリ此文
体ニテハ活言文ノ始メニ必ス在ルナレ以テ直説法ト區別
不可シ之ニ加フルニ文ノ始メニ直説法ノ餘義ヲ申明スル接

言アン則チ 句法ナレハ am daz . dazyl . op daz . der vink .

ト金氏 西文連環メ一小段落ヲナスト知ルヘシ
故ニ若シ夫レ此文ニ此婦人ノ勞瘵ヲ患ル所ヲ主トメ
言ント欲セハ之ヲ擣シテ附説法ヲ上トシ直説法ヲ下トス
ルナリ此時ニハ直説法中ノ語少シク其所在ヲ擣遷

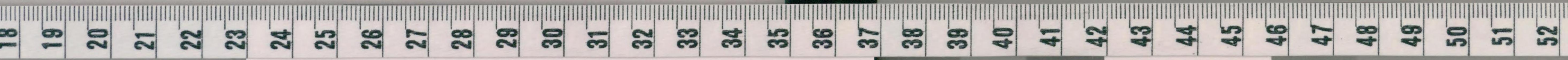
ト金氏 西文連環メ一小段落ヲナスト知ルヘシ
故ニ若シ夫レ此文ニ此婦人ノ勞瘵ヲ患ル所ヲ主トメ
言ント欲セハ之ヲ擣シテ附説法ヲ上トシ直説法ヲ下トス
ルナリ此時ニハ直説法中ノ語少シク其所在ヲ擣遷



ス例ナルニ為一婦人勞瘵^レ嬰^ルト死^{セリ} 彼^カ昨日ト云フ
口如^レ此^ノ文^ノ体^ニハ一婦人ヲ上ノ附説法中ニ入レ彼^レヲ
下ノ直説法ノ文中ニ置クモノハ元来^ニ彼^ノ代^ノ言^ハ常
ニ下ニ在ルモノヲ受ケズ上ノ名言ヲ指スヲ以テナリ是レ其
轉置ノ起原スル所ナリ又上ノ直説文中ニハ昨日ト云フ語
活言ト死ノ字ノ上ニアリ此文ニ最下ノ彼ノ下ニ置クノ理ハ
元来^ニ附説ノ文ハ畢竟ハ直説文ノ意ヲ詳明スルヲ以テ
統括メ見レハ先ツ一種ノ添言ナリ故ニ上ノ直説文中ノ
昨日ト云添言ノ格モ同シク一揆ナリ而シテ添言ニ箇ヲ
重子ヲ活言ノ上ニ置クハ直説文ノ法ニ乖ク故ニ今附説ノ

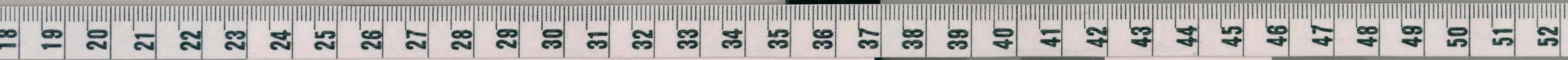
文ヲ括メ添言トシ其下ニ活言ノ死セリト云語ヲ置キ昨日
ト云添言ハ死スル時期ヲ顯ハス添言ナルヲ以テ之ヲ文未ニ
遷スナリ凡ソ諸ノ附説法ヲ始メニ皆レ直説法ニ終リ
移ス文^ノ体^ハ此^ノ如^ク直説法ノ變体ノ格ニナルト知ルヘシ
又附説法ノ始メニ在ル接言ヲ下ノ直説ノ文ノ始ニ受ケテ
一接言ヲ用ユルト多ク例スルニ^{ナラハ}江^ノ当^今ノ身^持ニ良
キ行^ヒ易^{ユル}然^ラハ可^カ江^ノ大^{ナル}幸^ヲ得^ルト云^フカ如^ク此^ノ時^ニ
ハナラハ附説文ノ接言ニメ下ノ然ル中ニハ直説文中ノ接言
ナリニ文相合スル所昭然ト知ルヘシ之ヲ蘭文トシ見レハ

*Manuscript of the same
in the same handwriting as
the original*



ray in Adly (Mind) herunder, dan
dilt of great will Reegen. 此ノ諸
ノ連文ノ体ヤノ四ツ上ニ Kanner, also, indien, d
Jalation, ホトマル中ノ下ノ直説文ノ語ナニ dan, also
dan No + 受ケテニ alouham, gushoon, Pak,
am, alhamed, kamel ホノ假令何一ナルト並尺ノ義
ト云字ニ当ル語アレハ下ニ shamel yter, tog (ホノ
然リトモト云フ之ヲ受ツルノ語ヲ置ツテ常トスルナリ)
總テ西書ヲ始メテ讀ム中ハ言語ノ連係スル處ヲ探リ
求メテ此語及此ニ関涉スルヲ以テ此ヨリ彼ニ轉シ彼ヨリ

此ニ至ルト云フテヲ知覺スルヲ所要トス而メ一章中主格
ノ一名言ト其用ヲ示ス一活言トヲ探索スルヲ最モ緊要トス
此ニツ者スラ探索メ得ル中ハ文ヲ解スルニ在キテナレト
知ルヘシ又活言ニヨリ四ツ用ノ三名言ナケレハナラヌ又諸
アリ則テ其ル送ルホノ語ナリ 何カ何ヲ何ニ送ル
或ハ送ルホナリ 唯二ノ一名言
ノニニテモ解スル語アリ 則テ沸ク執スルホノ語ナリ 其他
Murder, ^{アラ} John ^コ Martin ^{アムンダ} ホノ助言ノ活言ニ中ハ用
ノ名言ヲ云フヲ能ハス故ニ先ツ文中ニ於テ早ク活言ヲ
見安ル自活言ナリヤ將テ他居言ナリヤヲ知ルヘシ自活言
ナレハ「三」ノ名言ハ要スレ用ヲレノ名言ハ云フヲ能ハス



枕シテ眠ルカ如ク昨日ト見夕長キ章ヲ去初学ノ向ハ

シ唯キ文トナル故ニ先ツ其分註ヲ除キテ早ク死セリ

解 彼ノ体ト用トヲ見タスニ要トス此ノ如ク後次亦ニ本

文ヨリ分註ニ及フトキハ高キ如ク登テ四方ヲ見ルカ如ク

一月瞭然タルヲ得ヘシ其分註ヲ知ルハノ法アリテ

其下ニ *Mellicy, van, Mellicy, loor, Mellicy, die*

het jenn, het Mellicy, Marvijn, Marvijn, Marvijn, die

Mars van, al Marvijn, Marvijn, die

ソレハ云所々スル所ノト再ヒ及リ讀ムニキ代言マノテ活言ハ

其章ノ最下ニ在ルナリ 此サ工知覚セハ本文ト分註ハ容

易・区別ス可キナリ

○使令法ハ命令ヲ下レ或ハ事ヲ仕スル文法ナルヲ以テ

其命令ヲ受ケ或ハ其任ヲ受クル人目前ニ在リ故ニ

別ニ其人ノ名ヲラスニ及バズ是ヲ以テ此文ニハ多分ハ

主格ノ名言アルヲ以テ又其使令法タルヲ知ル可キ標

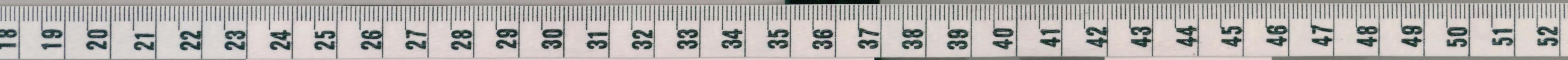
的ハ此文ニハ活言多分ハ文ノ始ノニ在リテ勿ク必ス

單称ナリ

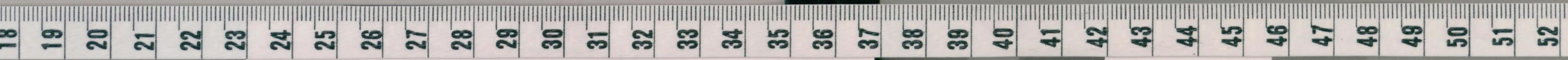
○和漢俱ニ活言ニ單複スルヲ以テ西洋ノ文ニハ必ス

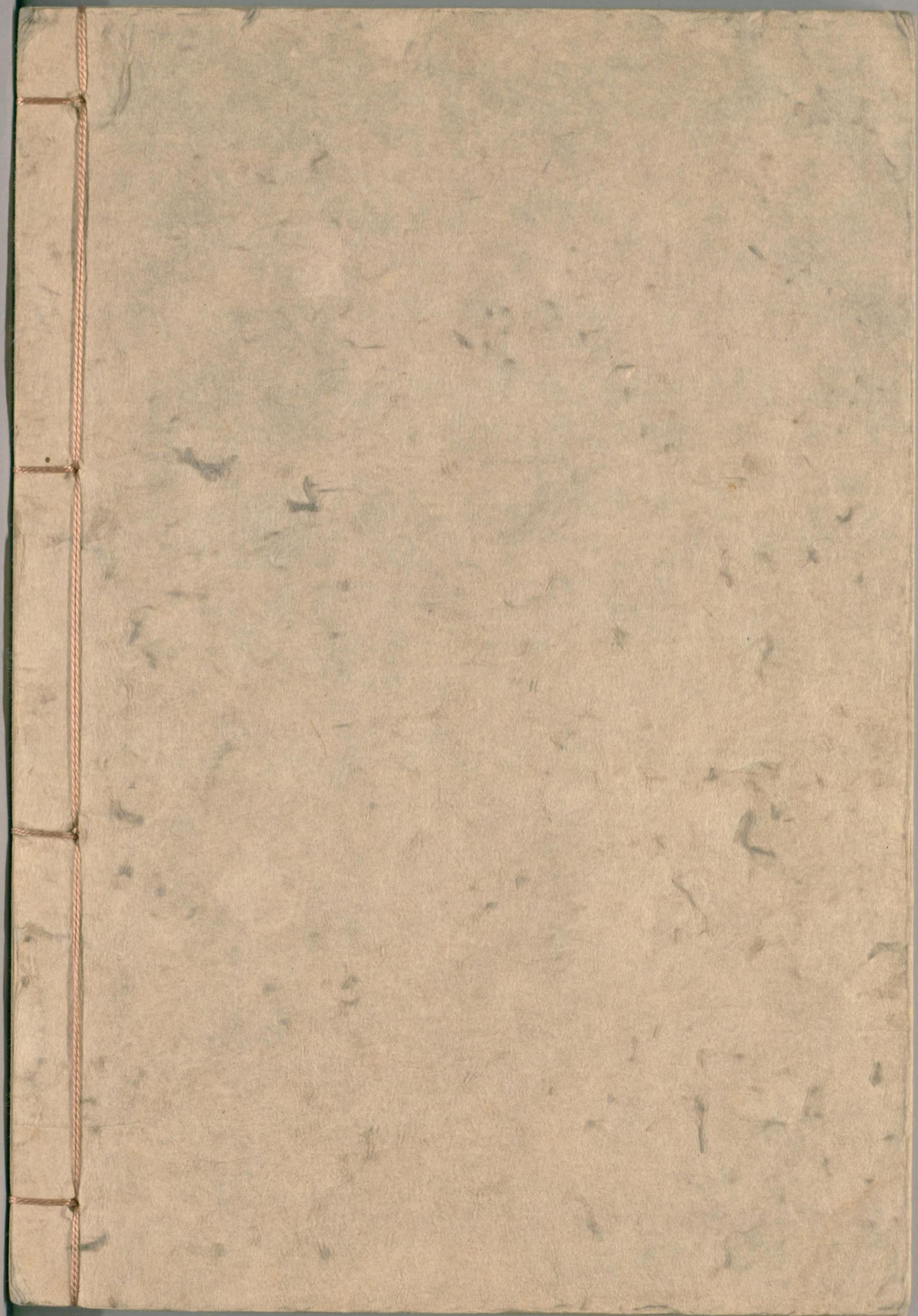
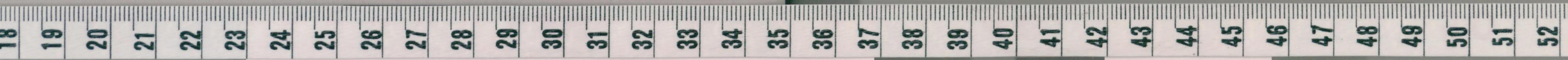
其主トスル名言ノ單複ニ從テ活言ニモ亦單複アリ

假令ハ彼訪何某ト云フ中ト彼輩訪何某ト云フ



トキノ訪フト云活言同シカラス何ニトナレハ彼ハ一人ナリ
彼輩トハ数人ナリ故ニ其主トスル諾モ單複ノ別ヲ
レハ其用ヲナスノ諾モ亦同シキコトヲ得サルナリ其單復
ノ標的ハ一ナラケルヲ以テ概ノ之ヲ尺ハシ難シト雖也
假令ハ彼ト言フ中ハ訪ト云諾ヲ *Redaction* ト單
稱ニシヨ 符ホト云フ中ハ *de Rebus* ト複稱トナス此
コト推メ本来活言ノ尾ニ *er* ヲ存スルモノハ單稱ノ
中ハ *er* ヲ除キテ *er* ト略ノハ子ガ複稱ニハ本来ノ *er*
ヲ言尾ニ有ツト知ルベシ然レニ使令法ニハ單稱ノカモ
單ナルモノ用ラ何某ヲ訪エト云 *er* *Redaction* ト更





国立国会図書館 タイトル『海外事類雑纂』 請求記号 寄別14-25

ガラス使用